

ながーい。わかりづらーい。



消防庁次長 田辺 康彦

片山善博先生とは、鳥取県庁出向時代、知事と課長の関係でした。多くのことを学ばせていただいた中で、「わかりやすく」は、その後の私の一貫した目標となっています。

先生は、「行政は国民に対し説明責任があるのだから、対外的にわかりやすく説明できなければだめ。難しい言葉を並べてごにょごにょ言っている人は、本当は、わかってないんだよ。」とよくおっしゃっていました。確かにわかりやすく説明するのは、思った以上に難しいですね。

「ながーい。わかりづらーい。（関西風のイントネーション）」は、自治税務局勤務時代の上司、米田課長の口癖です。税制は国民の代表である国会で決まりますから、税務局幹部は制度を所管する立場として、国会議員の方々にわかりやすく説明しなければなりません。そのため、私たち若手（当時）には、ポイントが一目でわかる資料の作成を求められました。

「わかりやすさ」は、効率的に仕事を進める上でも重要です。消防庁には、毎年、全国の消防本部から研修生に来ていただいています。最初は、職場環境の違いに戸惑うことでしょう。そんな中、周りの同僚から、わかりやすくパソコンの設定から教えてもらおうのと、聞いても全然わからない、とではスタートダッシュが違いますよね。「わかりやすさ」は、職場での円滑なコミュニケーション、働き方改革にもつながります。

「明確」という意味もあります。例えば、消防庁の財政支援に関する質問で、「ドローンは対象となっていますが、水中ドローンは含まれますか？」と聞かれ、はっきり答えられなかったら、その要綱の規定を「ドローン(水中ドローンを含む)」と改正すべきです（実際にそうした例あり）。次回以降、誰も悩まなくてすむし、時と場合によって解釈が違う！なんてことにならなくなります。

消防庁次長としての目標は、「わかりやすい消防」と「他機関と連携する消防」としました（他機関と連携の話は、次回書く機会があれば）。消防は、ミッションがはっきりしていますので、行政分野の中で「わかりやすい」方かもしれません。が、「わかりづらーい」の罠は潜んでいます。通知や事務連絡、要綱など消防庁の文書は？国民向けの広報は？そもそも、私自身の職員に対する指示は（汗）？

5回目の消防庁勤務。消防関係者、国民の皆様「わかりやすい消防」を目指します。